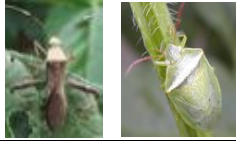




病害虫発生予察情報予報第 7 号 (10 月の予報)

佐賀県農業技術防除センター

I. 予報の概要および各作物の特記事項

作物名	病害虫名 ^{注1)}	10月の予想発生量 ^{注2)} (平年比)	予報対象の病害虫 (抜粋)
水稲 (普通期)	トビイロウンカ	やや多	
	<p>1. トビイロウンカ 一部で発生が多く、坪枯れの被害もみられている。今後の被害拡大を防ぐため、必ず圃場ごとの発生状況を確認し、寄生密度が高い場合は早急に薬剤防除を実施する(9月22日付け病害虫対策資料第9号参照)。</p> <p>2. 紋枯病 発生が多く、一部では上位葉鞘への進展がみられる。各圃場での発生状況を確認し、病斑の進展が認められる場合には、直ちに防除を実施する。薬剤散布の際には、農薬の使用基準(収穫前使用日数等)を遵守し、周辺圃場への飛散防止に努める。</p>		
大豆	ハスモンヨトウ	並	 カメムシ類
	カメムシ類	やや多	
<p>1. カメムシ類 カメムシ類による被害を防ぐため、圃場ごとの発生状況や大豆の生育状況を確認し、莢の伸長初期～子実肥大中期に防除を徹底する。発生が多い圃場では、7～10日間隔で2～3回防除を行う。</p>			
イチゴ (本圃)	ハダニ類	並	 ハダニ類
	うどんこ病	やや少	
	アブラムシ類	並	
	<p>1. ハダニ類 薬剤防除の際は、下葉や葉裏まで薬液が付着するように十分量を丁寧に散布する。また、天敵カブリダニ剤を導入する場合は、天敵放飼前に天敵に影響の少ない薬剤を用いて、ハダニ類の寄生を0頭に抑える。</p> <p>2. 炭疽病 天井ビニル被覆時まで本病に対する薬剤防除を継続する(令和4年8月25日付け病害虫対策資料第7号参照)。</p> <p>3. 次年産親株の病害虫対策 本年は、育苗期後半に炭疽病の発生が多かった。次年度作での炭疽病、萎黄病等の発生を抑えるため、健全親株を確保する。特に、育苗期に発生が認められた圃場では優良原種苗等への更新を徹底する。</p>		

作物名	病虫害名 ^{注1)}	10月の予想発生量 ^{注2)} (平年比)	予報対象の病虫害 (抜粋)
キュウリ	べと病	やや少	 退緑黄化病
	うどんこ病	やや少	
	褐斑病	並	
	アザミウマ類	並	
	コナジラミ類	多	
1. タバココナジラミ：退緑黄化病、ミナミキイロアザミウマ：黄化えそ病 既に退緑黄化病や黄化えそ病が発生している圃場がある。罹病株を認めた場合は、早急に処分するとともに、媒介虫の薬剤防除を徹底する。未発生圃場においても、媒介虫の侵入防止対策を徹底するとともに、定期的に薬剤防除を実施する。			
アスパラガス	ハダニ類	並	 褐斑病
	アザミウマ類	並	
	褐斑病	並	
	茎枯病	やや多	
	斑点病	やや少	
1. 次作に向けた対策 褐斑病については、7月以降発生が増加し、また、9月中旬以降の断続的な降雨により感染がさらに助長されたと考えられる。さらに、9月に入り茎枯病発生も散見されている。これらの病虫害を次作に持ち越さないために、収穫終了後も定期的に防除を行い、病原菌および害虫の密度の抑制に努める。			
タマネギ	1. べと病 苗床での感染を防ぐため、育苗期から予防防除を行う。		
野菜共通	チョウ目害虫 (ハスモンヨトウ、 オオタバコガ、 シロイチモジヨトウ)	やや多	 ハスモン ヨトウ
	1. チョウ目害虫 オオタバコガおよびシロイチモジヨトウのフェロモントラップへの誘殺数が平年より多い。圃場毎の発生状況を確認し、本虫の若齢期の防除を徹底する。		
果樹全般	果樹カメムシ類	やや多	 ツヤアオ カメムシ
	1. 果樹カメムシ類 発生量や飛来状況は地域や園によって異なるため、園内外をよく観察し、飛来が確認された場合には、直ちに防除を行う。 ツヤアオカメムシは常緑樹の樹上で越冬する習性があり、カンキツ類の樹上でも越冬する。本虫が越冬のために飛来したカンキツ樹に果実が結実している場合は、果実を収穫するまで被害を受けることになるので、寄生状況に注意する。		

作物名	病虫害名 ^{注1)}	10月の予想発生量 ^{注2)} (平年比)	予報対象の病虫害 (抜粋)
カンキツ	ミカンハダニ	並	
	チャノキイロアザミウマ	並	
	1. 果実腐敗対策 日焼け果や裂果は果実腐敗の原因となるので収穫時に取り除き処分する。また、降雨時・結露時の収穫は避けるとともに、果実に傷をつけないよう丁寧に取り扱う。腐敗防止対策のための薬剤散布は収穫7~10日前に、霧状になるノズルを使ってムラがないように散布する。 2. かいよう病 台風の襲来等強風雨が予想される場合は、襲来7日前~前日までに必ず薬剤散布を行う。 3. ミカンサビダニ 園内及び周辺の園で新たな被害を認めた場合は、早急に薬剤を散布する。特に、前年に被害が多発した園や放任園等に隣接する園では防除を徹底する。		
ナシ	1. 黒星病 翌年の伝染源を減らすため、収穫終了後の防除を徹底する。落葉した葉は本病の伝染源となるので、埋却もしくは園外に持ち出し処分する。		
ブドウ	1. ペト病 本病による早期落葉の防止及び園内の菌密度低下のため、収穫終了後の防除を徹底する。落葉した葉は本病の伝染源となるので、埋却もしくは園外に持ち出し処分する。		
キウイフルーツ	1. かいよう病 収穫後頃から、本病菌の増殖に好適な気温となる。感染を防止するため、発病の有無にかかわらず、全ての園において、収穫終了直後から銅水和剤による定期的な防除を実施する。		
キク	白さび病	並	
	アザミウマ類	並	
	アブラムシ類	やや多	
	ハダニ類	やや多	
	ハモグリバエ類	並	
	チョウ目害虫	やや多	
	1. チョウ目害虫 一部の圃場で発生を認めており、また、10月の気温は高いと予想され、本虫の増殖に好適な条件となっている。薬剤の効果は、中齢以降の幼虫には低下するため、圃場観察で早期発見に努め、若齢幼虫のうちに防除を徹底する。		

注1) 病虫害名に網掛けをしたものについては、予報の根拠とした内容を記載しています。

注2) 予想発生量については、平年との比較により記載しているため、実際の発生量とは相違を生じる場合があります。例えば、例年の発生量が少ない病虫害について「平年より多い」と予想した場合であっても、実際の発生量は多くない場合があります。

注3) 防除対策については「佐賀県病虫害防除のてびき」も参照してください。

佐賀県病虫害防除のてびき掲載アドレス

https://www.pref.saga.lg.jp/ki_ji/00321928/index.html

QRコード→



II. 予報の内容・根拠等について

予報内容（来月の予想発生量）

- 平年（過去10年間）と比較し「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
なお、少発生が予想される病害虫等については、予報の概要のみの記載となる場合があります。

予報内容の根拠

- 農業技術防除センターが実施する県内各地での調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生現況、気象予報からみた病害虫の発生条件等を基に、関係者による発生予察会議で決定します。
○ 発生現況および気象条件が来月の病害虫の発生に及ぼす影響については、（－）：少発生、（－～±）：やや少発生、（±）：並発生、（±～＋）：やや多発生、（＋）：多発生として示しています。

防除上注意すべき事項

- 各病害虫を防除する上で特に注意すべき事項等を記載しています。なお、全般的な防除対策については「県防除のてびき」をご参照ください（4ページの注釈にリンクが有ります）。

写真

- 1～3ページ目：予報で対象とした病害虫を抜粋して掲載しています。
5ページ目以降：定期調査時の各作物の生育状況を掲載しています。

10月の気象条件

- 病害虫の発生に関与する10月の気象条件については、福岡管区気象台発表の1ヶ月予報（令和4年9月22日）を基に、「気温：平年より高い」、「降水量：平年並」と判断しています。

気象予報による要素別確率(%)及び病害虫の発生に関与する気象条件

要素	1ヶ月予報における10月の気象予報（確率予報%）			病害虫の発生に関与する気象条件（平年比）
	低い(少ない)	平年並 (佐賀市の平年値)	高い(多い)	
気温	10	30 (19.1℃)	60	高い
降水量	30	30 (90.1 mm)	40	並

Ⅲ. 10月の予報

水稲（普通期）

[【概要に戻る】](#)

定期調査：47 圃場
調査日：9月16日～22日



定期調査圃場の様子（普通期水稲）

1. トビイロウンカ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 発生状況

① 定期調査 (図1参照)

発生株率 9.9% (平年 17.9%、前年 2.8%)
平年比：並 (±)

(2) 10月の気象予報

気温は高く、多発生の条件 (＋)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項参照。

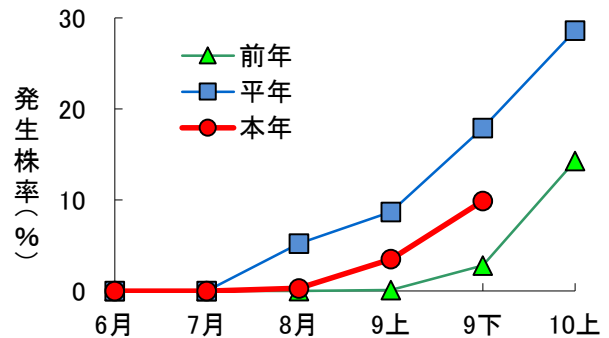


図1 普通期水稲でのトビイロウンカの発生推移

大豆

[【概要に戻る】](#)

定期調査：22 圃場
調査日：9月16～22日



定期調査圃場の様子

1. ハスモンヨトウ

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1参照)

発生株率 1.2% (平年 4.9%、前年 4.4%)
平年比：やや少 (ー～±)

白変葉発生株率 0.4% (平年 1.0%、前年 1.2%)
平年比：並 (±)

② トラップ調査 (図2参照) 【県内8地点】

平年比：並 (±)

(2) 10月の気象予報

気温は高く、多発生の条件 (＋)

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 各圃場での発生状況を確認し、白変葉が散見され始めたら防除を実施する。
- (2) 防除の際は、薬剤のかけむらがないよう規定の範囲で十分量を散布する。

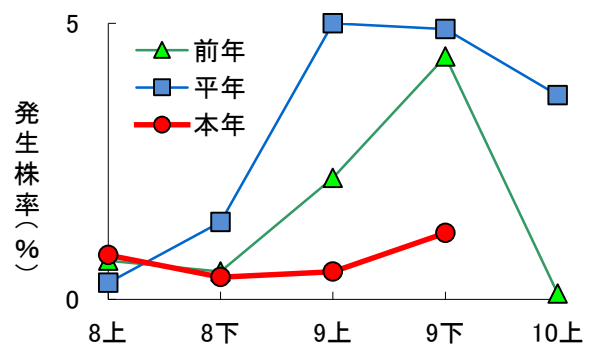


図1 大豆でのハスモンヨトウの発生推移

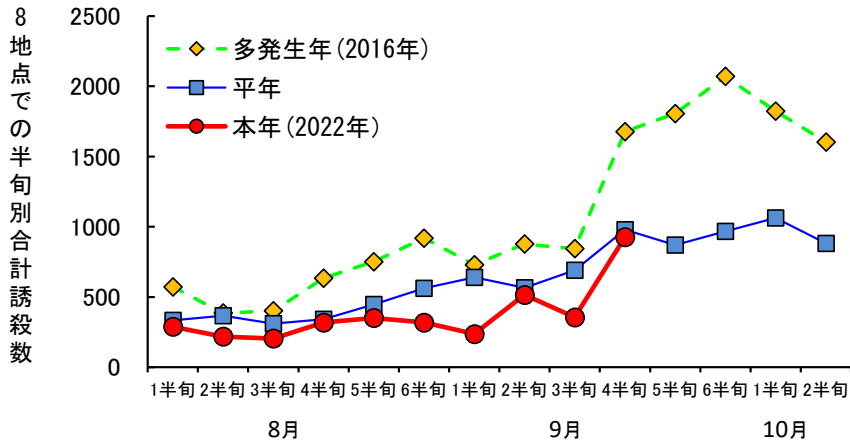


図2 フェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の半旬別誘殺数(9月4半旬まで)
(農業共済組合、農業試験研究センター調査による県内8地点の平均誘殺数)

2. カメムシ類 (アオカメムシ, 仔モンジカメムシ, ホノリカメムシ, ミナアカメムシ等)

1) 予報の内容

発生量: 平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1 参照)

発生株率 0.2% (平年 0.2%、前年 0.2%)

平年比: 並 (±)

(2) 10月の気象予報

気温は高く、多発生の条件 (+)

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 防除にあたっては、薬剤が莢によくかかるように散布する。
- (2) その他については、特記事項を参照する。

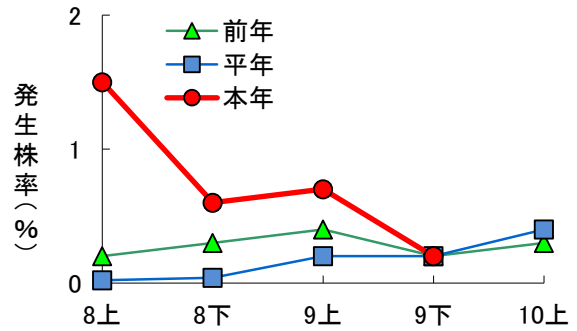


図1 大豆でのカメムシ類の発生推移

イチゴ (本圃)

[【概要に戻る】](#)

定期調査 10 圃場、防除員 6 圃場
調査日: 9月14~27日



定期調査圃場の様子

1. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量: 平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1 参照)

発生株率: 3.5% (平年 6.1%、前年 7.8%)

平年比: やや少 (一~±)

(2) 10月の気象予報

気温が高く、多発生の条件 (+)

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 特記事項参照。

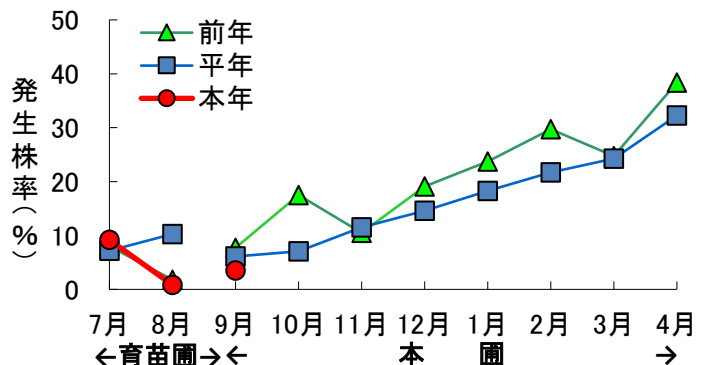


図1 ハダニ類のイチゴでの発生推移

2. うどんこ病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1 参照)

発生株率：0% (平年1.7%、前年0.3%)

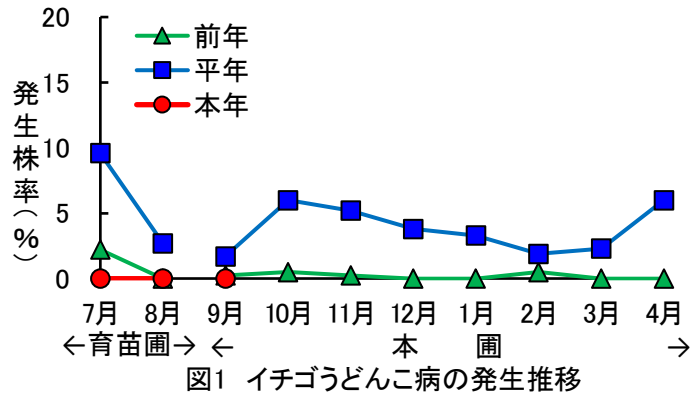
平年比：やや少 (一~±)

(2) 10月の気象予報

降水量が並で、並発生の条件 (±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 果実での発生を防ぐため、頂果房開花前までの防除を徹底する。



キュウリ

[【概要に戻る】](#)

定期調査 5 圃場、防除員 4 圃場

調査日：9月16~22日



定期調査圃場の様子

1. ベと病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1参照)

発生株率：1.1% (平年5.9%、前年1.1%)

平年比：やや少 (一~±)

(2) 10月の気象予報

降水量が並で、並発生の条件 (±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 適正な湿度管理に努める。

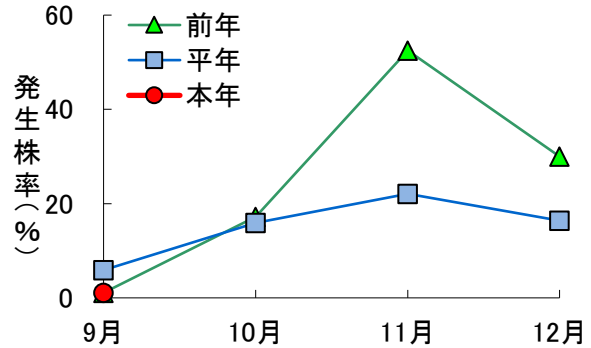


図1 キュウリべと病の発生推移

2. アザミウマ類

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1 参照)

発生株率：0.6% (平年1.9%、前年2.2%)

平年比：やや少 (一~±)

(2) 10月の気象予報

気温が高く、多発生の条件 (+)

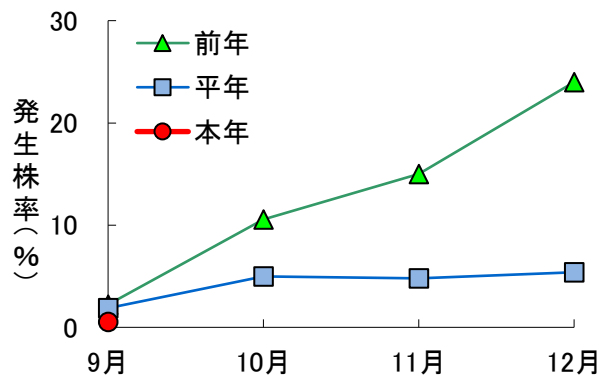


図1 アザミウマ類のキュウリでの発生推移

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項参照。

3. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量：平年より多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1 参照)

発生株率：17.2% (平年 4.7%、前年 11.1%)

平年比：多 <+>

(2) 10月の気象予報

気温が高く、多発生の条件 <+>

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項参照。

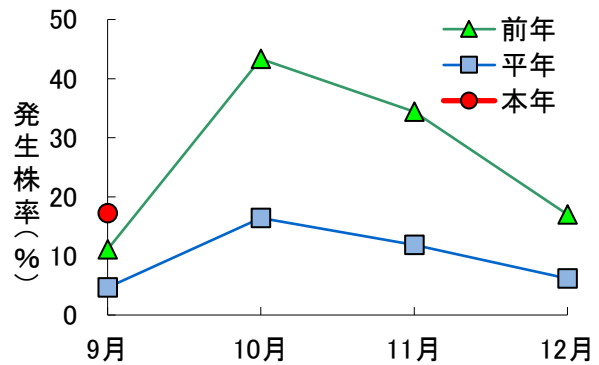


図1 コナジラミ類のキュウリでの発生推移

アスパラガス

[【概要に戻る】](#)

定期調査：8 圃場

調査日：9月16～21日



定期調査圃場の様子

1. 褐斑病

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1 参照)

発生株率：55.6% (平年 48.1%、前年 62.9%)

平年比：並 <±>

(2) 10月の気象予報

降水量は並で、並発生の条件 <±>

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項参照。

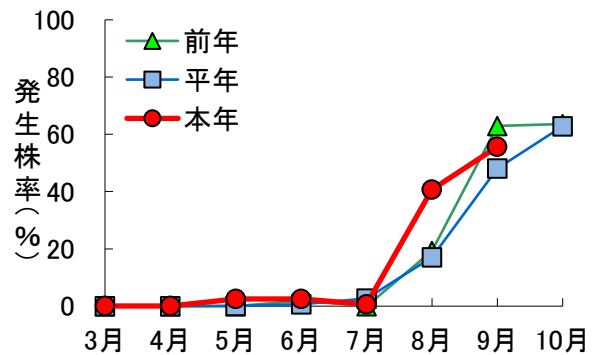


図1 アスパラガス褐斑病の発生推移

2. 茎枯病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1 参照)

発生茎率：4.4% (平年 1.4%、前年 0.7%)

平年比：多 <+>

ただし、発生は一部圃場に限られる。

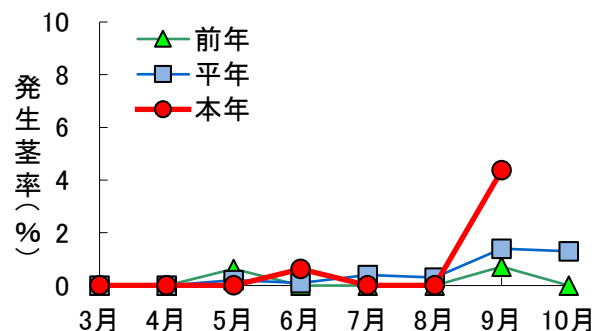


図1 アスパラガス茎枯病の発生推移

(2) 10月の気象予報

降水量は並で、並発生の条件〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項参照。

野菜共通

[【概要に戻る】](#)

1. チョウ目害虫 (ハスモンヨトウ、オオタバコガ、シロイチモジヨトウ)

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1, 2 参照)

作物名	食害株率 (%)	平年比	平年値 (%)	前年値 (%)
イチゴ	1.4	並 〈±〉	1.1	1.0
アスパラガス	0.6	多 〈+〉	0.3	0

② フェロモントラップによるハスモンヨトウの9月の誘殺数は、平年並 (図3)。〈±〉

③ フェロモントラップによるオオタバコガの9月の誘殺数は、平年より多い (図4)。〈+〉

④ フェロモントラップによるシロイチモジヨトウの9月の誘殺数は、平年より多い (図5)。〈+〉

(2) 10月の気象予報

気温が高く、多発生の条件〈+〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 薬剤防除に当たっては、使用方法 (収穫前日数等) を遵守し、虫体によくかかるよう丁寧に散布する。

(2) その他については、特記事項を参照する。

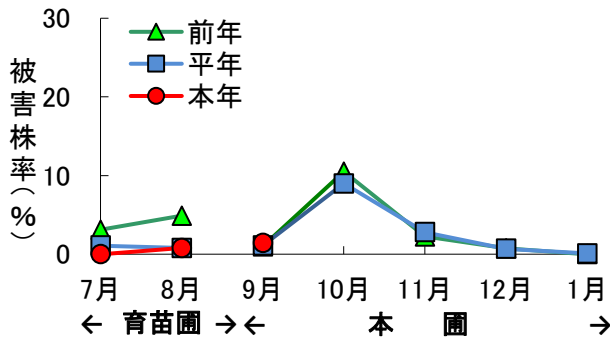


図1 チョウ目害虫によるイチゴの被害株率の推移

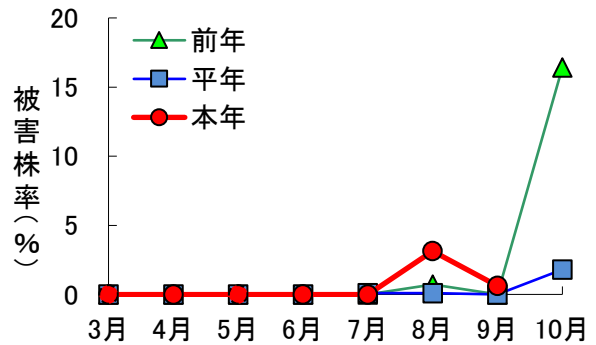


図2 チョウ目害虫によるアスパラガスの被害株率の推移

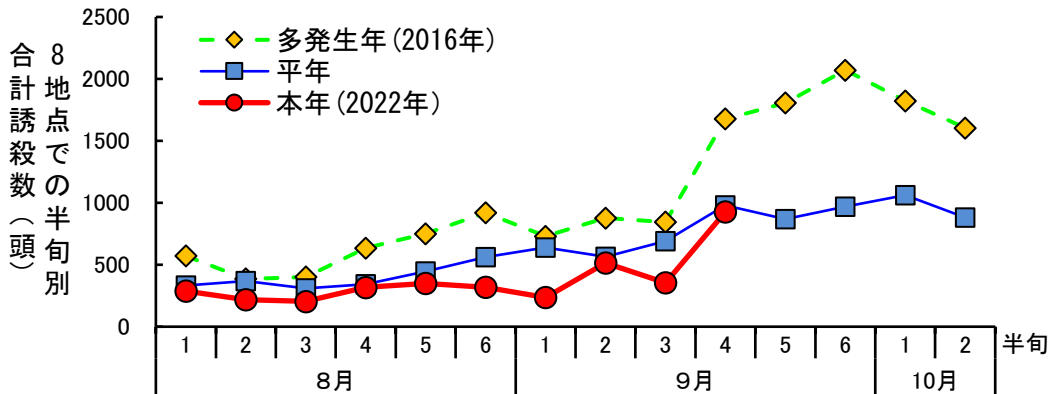


図3 フェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の半旬別誘殺数 (農業共済組合、農業試験研究センター調査による県内8地点の平均誘殺数)

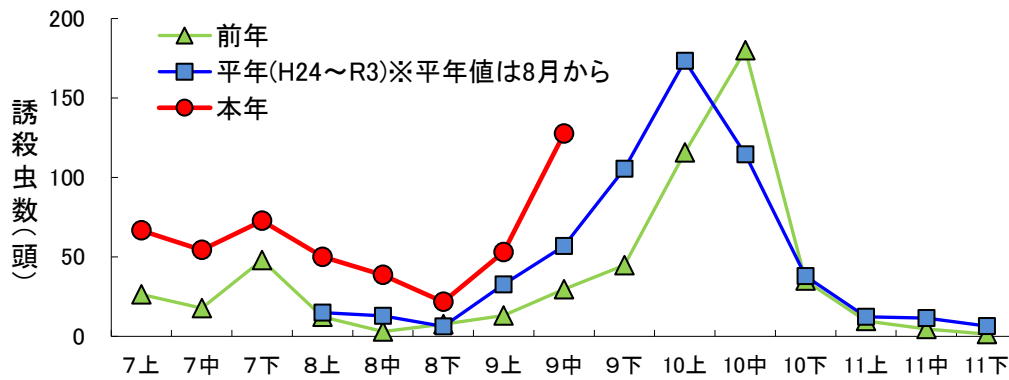


図4 フェロモントラップによるオオタバコガの誘殺数
(川副町3地点の平均:病害虫防除員2地点、農業試験研究センター1地点)

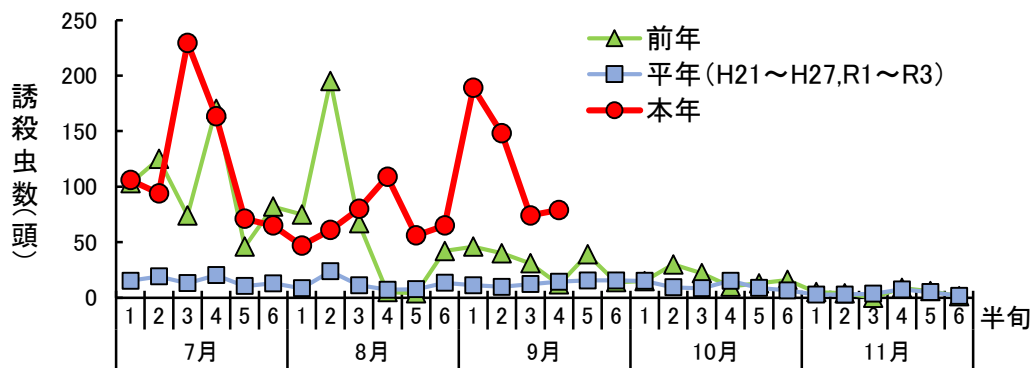


図5 フェロモントラップによるシオイモトウの半旬別誘殺数
(川副町・農業試験研究センター調査)

果樹全般

[【概要に戻る】](#)

1. カメムシ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①予察灯(図1参照) 平年比：並(±)

②フェロモントラップ(図2参照) 平年比：並(±)

(2) ヒノキ樹上における寄生数(図3、表1参照、9月7~9日調査)

成幼虫数平均：19.1頭(平年10.2頭、前年6.5頭) 平年比：やや多(±~+)

(3) ヒノキ球果における口針鞘数(図4、表1参照、9月7~9日調査)

口針鞘数平均：18.4本/果(平年17.5本、前年17.2本) 平年比：並(±)

(4) 9月の気象予報

気温が高く、多発生の条件(+)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項参照。

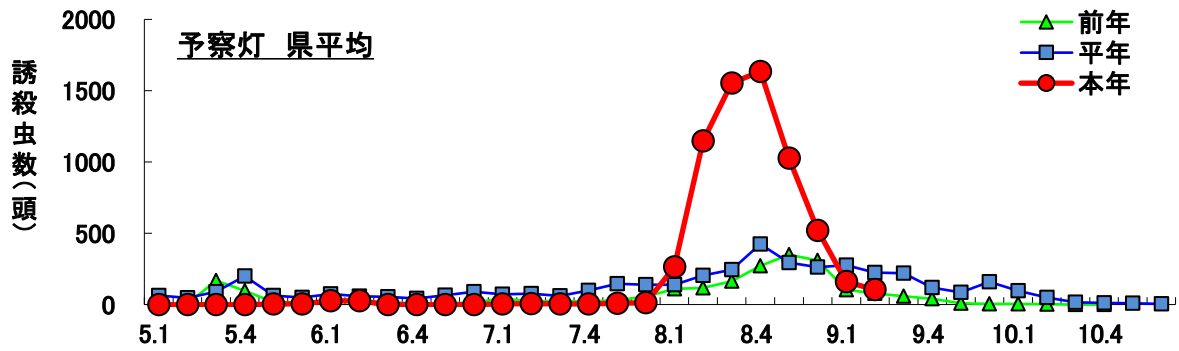


図1 予察灯（佐賀市、太良町(病害虫防除員調査)、小城市(果樹試験場調査)）による果樹カメムシ類の平均誘殺数の推移

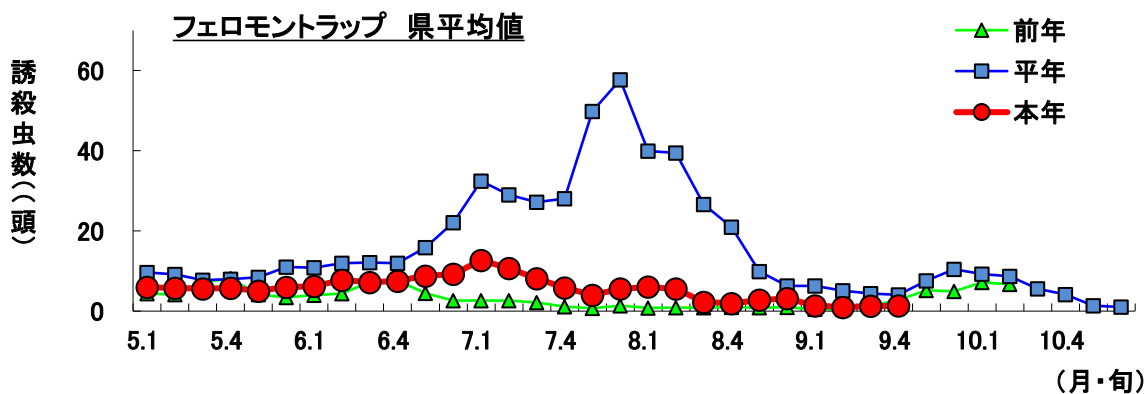


図2 フェロモントラップ（鹿島市、伊万里市、唐津市浜玉町、基山町(病害虫防除員調査)、小城市(果樹試験場調査)、唐津市鎮西町(上場営農センター調査)）による果樹カメムシ類の平均誘殺数の推移

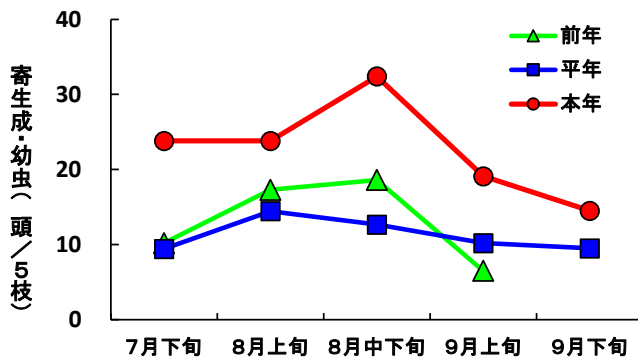


図3 ヒノキ毬果における果樹カメムシ類寄生数の推移

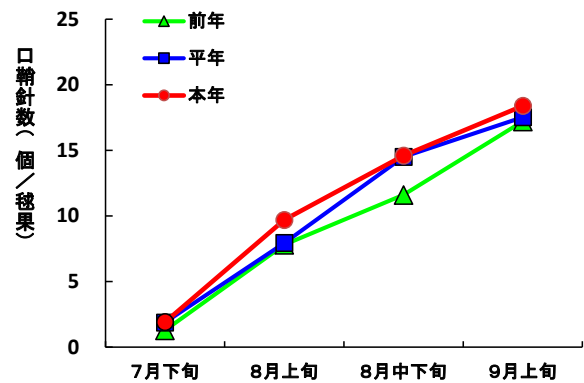


図4 果樹カメムシ類によるヒノキ毬果の口針数の推移

表1 ヒノキ毬果における果樹カメムシ類の寄生虫数および口針鞘数(図3.4に関する地点別の状況)

No.	調査地点	7月下旬	8月上旬	8月中下旬	9月上旬			9月下旬			ヒノキ毬果 ²⁾ 着果程度	口針鞘数 ⁴⁾
		合計	合計	合計	成虫	幼虫	合計	成虫	幼虫	合計		9月上旬
1	小 城 市	19	4	31	11	0	11	-	-	-	中	13.5
2	唐 津 市 1	5	8	19	15	0	15	9	0	9	中	20.4
3	唐 津 市 2	15	27	155	52	4	56	32	0	32	多	17.7
4	唐 津 市 3	62	37	3	4	2	6	-	-	-	やや多	26.2
5	伊 万 里 市 1	18	15	25	11	1	12	6	0	6	中	28.6
6	伊 万 里 市 2	37	31	18	15	2	17	4	0	4	中	16.2
7	伊 万 里 市 3	10	12	18	17	9	26	6	2	8	やや多	13.3
8	白 石 町	34	36	8	6	3	9	-	-	-	やや多	21.2
9	鹿 島 市 1	26	19	36	11	2	13	15	0	15	やや多	25.1
10	鹿 島 市 2	18	34	25	17	4	21	15	1	16	やや多	12.0
11	太 良 町 1	12	21	18	7	1	8	-	-	-	中	12.6
12	太 良 町 2	30	41	5	33	2	35	25	1	26	多	14.4
	平 均	23.8	23.8	32.4	16.6	2.5	19.1	14.0	0.5	14.5	やや多	18.4
	平年	9.4	14.4	12.7	-	-	10.2	-	-	9.5	-	17.5
	前年(R3年)	10.2	17.3	18.6	-	-	6.5	-	-	-	やや少	17.2

1)たつき落としによる調査

2)ヒノキ毬果着果程度:福岡農総試の達観調査法(一部改変)に基づいて調査

・極少:ほとんど結実が見あたらない

・少:梢頭部にわずかに結実

・やや少:梢頭部から中央部周辺にかけて結実した樹と梢頭部にわずかに結実した樹が混在

・中:梢頭部から中央部付近にかけて結実

・やや多:梢頭部から最下部にかけて全面的に結実した樹と全面的に結実しない樹が混在

・多:梢頭部から最下部にかけて全面的に結実

・極多:梢頭部から最下部にかけて全面的にブドウ状に結実

3)口針鞘数が1果当たり25本を超えるとヒノキ毬果が餌として不適となりカメムシがヒノキ毬果より離脱する傾向

4)各調査日における口針鞘数から離脱予想時期(25本/果に達する時期)を推定

5)離脱予想時期の県平均は、各調査日および口針鞘数の平均値により算出

※ヒノキ毬果における寄生虫数、口針鞘数は地形等により差が大きいため、各調査地点の結果が必ずしも当該地域全体の状況を示すものではない。

カンキツ

[【概要に戻る】](#)

定期調査: 8 圃場

調査日: 9月20日~22日



定期調査圃場の様子

1. ミカンハダニ

1) 予報の内容

発生量: 平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査(図1参照)

発生葉率: 0.1% (平年 1.1%、前年 0.5%)

平年比: やや少 (<-~±)

(2) 10月の気象予報

気温は高く、多発生の条件(<+)

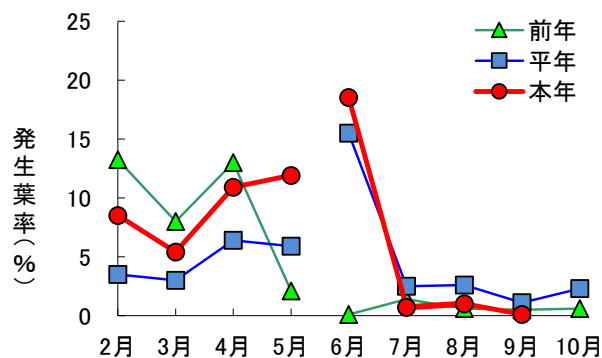


図1 カンキツ ミカンハダニの発生推移

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生が見られる圃場、特に収穫まで期間のある晩生品種等では低密度時からの防除を徹底する。
- (2) 殺ダニ剤に対する抵抗性の発達を避けるため、同じ系統の薬剤は年1回の使用とする。また、前年に使用した殺ダニ剤は使用しない。

キク

[【概要に戻る】](#)

定期調査：7圃場
調査日：9月21～26日



定期調査圃場の様子

1. アザミウマ類 (クダハアザミウマ、ミナキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ)

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査 (図1参照)

発生株率：0.9% (平年7.8%、前年0.5%)
平年比：少<->

(2) 10月の気象予報

気温は高く、多発生の条件<+>

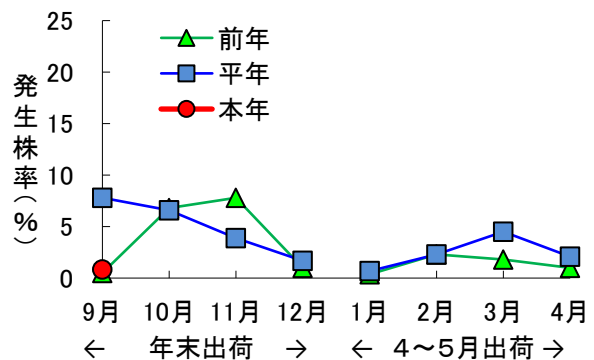


図1 アザミウマ類のキクでの発生推移

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生状況をよく確認し、低密度からの防除を徹底する。本虫は、薬剤の到達しにくい葉裏などに寄生しているため、散布むらがないよう、十分量を丁寧に散布する。
- (2) 圃場周辺の雑草は発生源となるため、除草を徹底する。
- (3) ミカンキイロアザミウマは、キクえそ病 (TSWV)・茎えそ病 (CSNV) のウイルスを媒介する。発病株を認めた場合は速やかに取り除き、媒介虫に対する防除を徹底する。

2. アブラムシ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査 (図1参照)

発生株率：0.3% (平年0.2%、前年0.3%)
平年比：並<±>

(2) 10月の気象予報

気温は高く、多発生の条件<+>

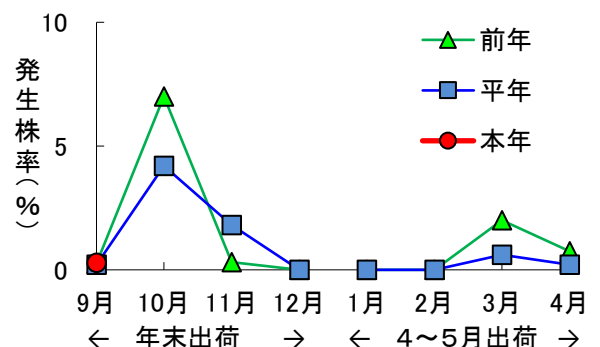


図1 アブラムシ類のキクでの発生推移

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 葉裏や下位葉にも薬剤が十分かかるよう散布する。

3. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査

発生株率：1.1%（平年1.0%、前年0%）

平年比：並（±）

(2) 10月の気象予報

気温は高く、多発生の条件（+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 葉裏や下位葉にも薬剤が十分かかるよう散布する。
- (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

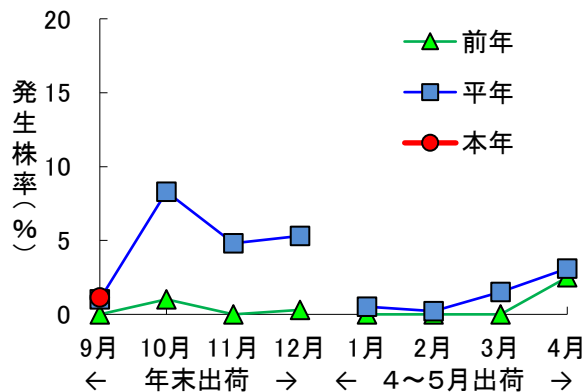


図1 ハダニ類のキクでの発生推移

4. チョウ目害虫（ハモンヨトウ、材バコガ、シイモジヨトウ）

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

被害株率：0.6%（平年0.9%、前年0.8%）

平年比：平並（±）

② フェロモントラップによる誘殺数

野菜共通の項参照

(2) 10月の気象予報

気温は高く、多発生の条件（+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 特記事項参照。

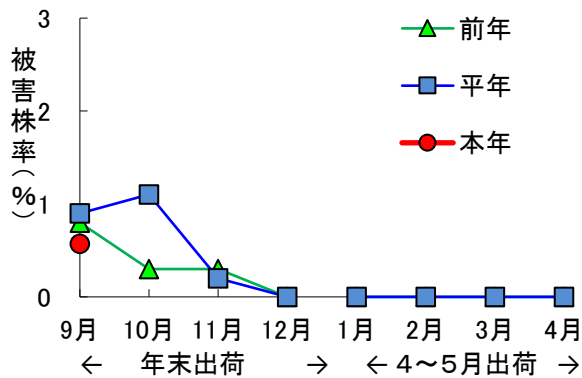


図1 チョウ目害虫によるキクでの被害株率の推移

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部
 〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088
 TEL (0952) 45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5085
 Mail nougyougi.jutsu@pref.saga.lg.jp
 ホームページアドレス <https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321899/index.html>

